

(様式第 10)

事総務 26-194 号
平成 26 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 北里研究所
理事長 藤井 清

北里大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒108-8641 東京都港区白金五丁目 9 番 1 号
氏 名	学校法人 北里研究所

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

北里大学病院

3 所在の場所

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里一丁目 1 5 番 1 号	電話 (042) 778 - 8111
--	-----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> ①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="checkbox"/> ②医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 内分泌・代謝内科 2 腎臓内科 3 血液内科 4 リウマチ科 5 感染症内科	
6 アレルギー科 7 消化器内科 8 循環器内科 9 呼吸器内科 10 神経内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 乳腺・内分泌外科 3 小児外科 4 呼吸器外科 5 心臓血管外科 6 心臓外科 7 血管外科 8 小児心臓血管外科 9 形成外科 10 美容外科 11 頭頸部外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	12放射線科	⑬放射線診断科	
⑭放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 臨床検査科 2 病理診断科 3 リハビリテーション科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0 床	0 床	0 床	0 床	1,033床	1,033床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	512人	79人	522.6人	看 護 補 助 者	70人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	3人	3人	3.8人	理 学 療 法 士	26人	臨 床 検 査 技 師	116人
薬 剤 師	64人	2人	65.1人	作 業 療 法 士	6人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	4人	0人	4人	視 能 訓 練 士	15人	そ の 他	0人
助 産 師	45人	0人	45人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	1069人	19人	1079.9人	臨 床 工 学 技 士	34人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	17人
准 看 護 師	2人	0人	2人	栄 養 士	4人	そ の 他 の 技 術 員	11人
歯 科 衛 生 士	3人	0人	3人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	217人
管 理 栄 養 士	22人	0人	22人	診 療 放 射 線 技 師	74人	そ の 他 の 職 員	126人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	24人	眼 科 専 門 医	18人
外 科 専 門 医	25人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9人
精 神 科 専 門 医	3人	放 射 線 科 専 門 医	10人
小 児 科 専 門 医	12人	脳 神 経 外 科 専 門 医	11人
皮 膚 科 専 門 医	9人	整 形 外 科 専 門 医	10人
泌 尿 器 科 専 門 医	12人	麻 酔 科 専 門 医	11人
産 婦 人 科 専 門 医	16人	救 急 科 専 門 医	10人
		合 計	180人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数	736.5人	0人	736.5人
1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数	2,412.5人	0人	2,412.5人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数			2066 剤
必要医師数			213人
必要歯科医師数			1人
必要薬剤師数			25人
必要(准)看護師数			450人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	1,125m ²	鉄筋コンクリート	病床数	72床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 212.22 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	20床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 67.30 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	228.87m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	159.02m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) オートクレーブ、全自動同定感受性装置、安全キャビネット、孵卵器			
病理検査室	521.58m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ラミナーテーブル、切り出し台、撮影装置、顕微鏡、遠心器、遺伝子解析装置、PCR、VIP、自動染色装置、自動封入装置、包埋センター			
病理解剖室	316.90m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 剖検台、切り出し台、ラミナーテーブル、撮影装置			
研究室	4,946.80m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細胞解析装置、マイクローム、電子顕微鏡超低温フリーザ、高速冷却遠心機			
講義室	2,952.67m ²	鉄筋コンクリート	室数	27室	収容定員	2,248人
図書室	2,528m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	23万冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	68.0%	逆紹介率	47.9%
算出根拠	A: 紹介患者の数		20,377人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,015人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,331人
	D: 初診の患者の数		33,377人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
末梢血単核球移植による血管再生治療	1人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	27人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	7人
実物大臓器立体モデルによる手術支援	3人
硬膜外自家血注入療法	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	130人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	101人	・広範脊柱管狭窄症	6人
・重症筋無力症	160人	・原発性胆汁性肝硬変	37人
・全身性エリテマトーデス	642人	・重症急性膵炎	7人
・スモン		・特発性大腿骨頭壊死症	56人
・再生不良性貧血	57人	・混合性結合組織病	91人
・サルコイドーシス	93人	・原発性免疫不全症候群	4人
・筋萎縮性側索硬化症	11人	・特発性間質性肺炎	29人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	421人	・網膜色素変性症	37人
・特発性血小板減少性紫斑病	139人	・プリオン病	
・結節性動脈周囲炎	73人	・肺動脈性肺高血圧症	15人
・潰瘍性大腸炎	68人	・神経線維腫症	13人
・大動脈炎症候群	35人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	22人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	
・天疱瘡	55人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	34人	・ライソゾーム病	12人
・クローン病	21人	・副腎白質ジストロフィー	
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎		・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
・悪性関節リウマチ	22人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	242人	・球脊髄性筋萎縮症	3人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	19人
・後縦靭帯骨化症	17人	・肥大型心筋症	4人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	84人	・ミトコンドリア病	10人
・ウェゲナー肉芽腫症	11人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	156人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	29人	・黄色靭帯骨化症	1人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	102人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料	特定集中治療室管理料 1
臨床研修病院入院診療加算	小児特定集中治療室管理料
救急医療管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料
超急性期脳卒中加算	小児入院医療管理料1
妊産婦緊急搬送入院加算	小児入院医療管理料4
診療録管理体制加算	.
急性期看護補助体制加算	.
看護職員夜間配置加算	.
療養環境加算	.
重症者等療養環境特別加算	.
無菌治療室管理加算	.
精神科リエゾンチーム加算	.
がん診療連携拠点病院加算	.
栄養サポートチーム加算	.
医療安全対策加算	.
感染防止対策加算	.
患者サポート体制充実加算	.
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	.
ハイリスク妊婦管理加算	.
ハイリスク分娩管理加算	.
退院調整加算	.
新生児特定集中治療室退院調整加算	.
救急搬送患者地域連携紹介加算	.
呼吸ケアチーム加算	.
データ提出加算1・2	.
救命救急入院料 1・4	.

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)①

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	時間内歩行試験
心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	胎児心エコー法
高度難聴指導管理料	ヘッドアップティルト試験
糖尿病合併症管理料	人工膵臓
がん性疼痛緩和指導管理料	皮下連続式グルコース測定
がん患者指導管理料	長期継続頭蓋内脳波検査
移植後患者指導管理料	神経学的検査
糖尿病透析予防指導管理料	補聴器適合検査
外来リハビリテーション診療料	小児食物アレルギー負荷検査
外来放射線照射診療料	内服・点滴誘発試験
地域連携診療計画管理料	センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	画像診断管理加算1
がん治療連携計画策定料	画像診断管理加算2
がん治療連携管理料	ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジトロン断層撮影
肝炎インターフェロン治療計画料	CT撮影及びMRI撮影
薬剤管理指導料	冠動脈CT撮影加算
医療機器安全管理料1	外傷全身CT加算
医療機器安全管理料2	大腸CT撮影加算
歯科治療総合医療管理料	心臓MRI撮影加算
在宅患者訪問看護・指導料	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
造血器腫瘍遺伝子検査	外来化学療法加算1
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	無菌製剤処理料
検体検査管理加算(I)	心大血管疾患リハビリテーション料(I)
検体検査管理加算(IV)	脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
遺伝カウンセリング加算	運動器リハビリテーション料(I)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	呼吸器リハビリテーション料(I)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)②

施設基準の種類	施設基準の種類
難病患者リハビリテーション料	胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術
集団コミュニケーション療法料	経皮的中心心筋焼灼術
歯科口腔リハビリテーション料2	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
透析液水質確保加算	両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器交換術
磁気による膀胱等刺激法	大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
一酸化窒素吸入療法	補助人工心臓
皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	植込型補助人工心臓(非拍動流型)
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	経皮的動脈遮断術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	ダメージコントロール手術
治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	腹腔鏡下肝切除術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	生体部分肝移植術
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
網膜再建術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	同種死体腎移植術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)	生体腎移植術
乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	膀胱水圧拡張術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
経皮的冠動脈形成術	人工尿道括約筋植込・置換術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
経皮的冠動脈ステント留置術	胎児胸腔・羊水腔シャント術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)③

施設基準の種類	施設基準の種類
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	
胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	
輸血管管理料 I	
輸血適正使用加算	
貯血式自己血輸血管理体制加算	
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
内視鏡手術用支援機器加算	
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
麻酔管理料(I)	
麻酔管理料(II)	
放射線治療専任加算	
外来放射線治療加算	
高エネルギー放射線治療	
1回線量増加加算	
強度変調放射線治療(IMRT)	
画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
体外照射呼吸性移動対策加算	
定位放射線治療	
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
保険医療機関間の連携による病理診断	
病理診断管理加算	
クラウン・ブリッジ維持管理料	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定	・
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	・
・先天性難聴の遺伝子診断	・
・腹腔鏡下膀胱内手術	・
・超音波骨折治療法	・
・胸腔鏡下動脈管開存症手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	①剖検例CPC(50回)、肉眼剖検所見検討会(50回) ②部門内外科病理症例検討会(12回) ③その他(消化器疾患カンファレンス(6回)、リンパ腫検討会(12回)、呼吸器外科カンファレンス(10回)、呼吸器内科カンファレンス(30回))
剖 検 の 状 況	剖検症例数 30 例 / 剖検率 4.20%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Kv1.3移入線維芽細胞による不 全心筋の活動電位再生と逆理モ デリング誘導の研究	庭野慎一、庭野裕恵	循環器内科	5,000,000	補 委	文部科学省科 学研究助成金
糖尿病における心筋酸化ストレス と不整脈基盤形性の機序および 制御に関する研究	庭野慎一、庭野裕恵	循環器内科	5,000,000	補 委	文部科学省科 学研究助成金
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 2

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
マウスネフローゼモデルの確立	鎌田貢壽	腎臓内科	701,000	補 委	神奈川県 保健福祉局
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自己免疫疾患における病原性自己抗体の産生機序の解析	廣畑 俊成	膠原病感染内科	1,100,000	補委	文部科学省
ベーチェット病に関する調査研究	廣畑 俊成	膠原病感染内科	1,500,000	補委	厚生労働省
危険因子を同定する検診制度導入によるリウマチ制圧プロジェクト	廣畑 俊成	膠原病感染内科	300,000	補委	厚生労働省
成人スティル病の実態調査	廣畑 俊成	膠原病感染内科	627,000	補委	東京都福祉保健局
生体防御系反応性異常疾患群の機能調節を目指した治療の開発	廣畑 俊成	膠原病感染内科	500,000	補委	文部科学省
混合性結合組織病の病態解明、早期診断と治療法の確立に関する研究	田中 住明	膠原病感染内科	1,400,000	補委	厚生労働省
				補委	
				補委	
				補委	
				補委	

計 6

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
発達障害児の漢字の読み書き能力および障害メカニズムに関する認知神経心理学的研究	井上勝夫	精神神経科	300,000	補 委	文科省
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
大腸癌分子標的フォスファターゼとラス遺伝子の治療可能性について検討	渡邊 昌彦	外科	900,000	補 ①委	独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
大腸癌におけるHOPXの治療標的の可能性	大木 暁	外科	1,000,000	補 ①委	独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
癌におけるepigenetic治療の可能性とp53経路の関係	山下 継史	外科	2,200,000	補 ①委	独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
進行大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	渡邊 昌彦	外科	250,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
進行大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	佐藤 武郎	外科	250,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
胃がんに対するリンパ節郭清を伴う腹腔鏡下手術と開腹手術との比較に関する多施設共同ランダム化比較試験	菊池 史郎	外科	300,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 6

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
手術室映像配信システムを用いた医学教育に関する研究	北村 律	心臓血管外科	312,500	補 委	文部科学省 科学研究費 補助金(基 盤研究C)
血流可解析技術による心 負荷評価システムに基づ く左心低形成症候群外科 治療戦略の確立	岡 徳彦	心臓血管外科	1,950,000	補 委	文部科学省 科学研究費 補助金(基 盤研究C)
遠隔期心機能予後を向上 させる心臓血管手術を行 うための、血流解析システ ムの構築	板谷 慶一	心臓血管外科	1,690,000	補 委	文部科学省 科学研究費 補助金(若 手研究B)
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 3

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
各種プロテオーム解析を用いた微乳頭構造を呈する肺癌特異的マーカーの獲得	佐藤 之俊	呼吸器外科	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
中皮腫における胸腔内治療法の構築及び新規バイオマーカーの探索	塩見 和	呼吸器外科	1,950,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
一酸化窒素・水素ガス吸入によるARDS軽減効果の解析	小林弘祐	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	1,700,000	⑧ 補 委 文科省
虚血再灌流治療後の有害事象を軽減し健康寿命を延ばすための革新的吸入ガス治療法の非臨床開発研究	小林弘祐	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	2,800,000	⑧ 補 委 科学技術振興機構 JST
電気透析と人工分子シャペロンを組み合わせたアルブミン結合毒素除去によるアルブミン再生	小林弘祐(北里大学 小久保謙一 分担研究)	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	100,000	⑧ 補 委 文科省
新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温と水素吸入ガス併用療法の効果に関する研究	小林弘祐(香川大学 日下 隆 分担研究)	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	50,000	⑧ 補 委 文科省
呼吸器機能障害の身体障害認定に関する研究	小林弘祐(奈良県立医科大学 藤本清秀 分担研究)	呼吸器内科 北里大学医療衛生学部	250,000	⑧ 補 委 厚生省
				補 委
				補 委

計 5

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
対光反応を応用した他覚的眼科検査法の開発	浅川 賢	眼科 北里大学医療衛生学部	650,000	○ 補 委	科研費
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
「分子プロファイリングによる新規標的の同定を通じた難治がん治療法開発」	恩田貴志	婦人科	1,500,000	補 ○委	文部科学省
婦人科悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	恩田貴志	婦人科	1,000,000	補 ○委	国立がん研究センター
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
先天性心疾患児における人工心肺手術後の至適予防接種時期の検討:免疫動態の解析	高梨 学	小児科	400,000	○補委 公益財団法人森永奉仕会
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委
				補委

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
精巢特異的発現を示すREV7の生殖細胞生存・増殖・分化における重要性の検討	村雲芳樹	病院病理部	1,950,000	補	日本学術振興会
微小乳頭成分を有する肺腺癌の高い脈管侵襲・転移能に寄与する因子の解明	蔣世旭	病院病理部	1,690,000	補	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎バイオマーカーと治療標的としてのOLFM4の役割と分子基盤の解明	吉田 功	病院病理部	1,400,000	補	日本学術振興会
テキスト及び画像情報による客観的病診断過程のモデル化と診断支援システムの開発	原 敦子	病院病理部	3,380,000	補	日本学術振興会
β -カテニンシグナル系による胃良悪性境界病変の新規病理組織診断ツールの確立	高橋博之	病院病理部	1,690,000	補	日本学術振興会
				補	
				補	
				補	

計 5

合計 35

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Fujishi T, Koitabashi T, Inomata T, Ohori K, Shibata K, Okamoto H, Miyaji K, Izumi T.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Prosthetic mitral valve endocarditis with left atrial dissection.	Circ J. ;77(6):1585-6,2013
2	Aoyama N, Imai H, Kurosawa T, Fukuda N, Moriguchi M, Nishinari M, Nishii M, Kono K, Soma K, Izumi T.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Therapeutic strategy using extracorporeal life support, including appropriate indication, management, limitation and timing of switch to ventricular assist device in patients with acute myocardial infarction.	J Artif Organs.2013 Oct 27. [Epub ahead of print]
3	Ishii S, Inomata T	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Clinical Significance of Heart Rate during Acute Decompensated Heart Failure to Predict Left Ventricular Reverse Remodeling and Prognosis in Response to Therapies in Nonischemic Dilated Cardiomyopathy	Heart Vessels. 2014;29:88-96
4	Ichiro Takeuchi, Hideo Fujita, Kazuhiro Ohe, Ryuta Imaki, Nobuhiro Sato, Kazui Soma, Shinichi Niwano and Tohru Izumi.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Initial Experience of Mobile Cloud ECG System Contributing to the shortening of Door to Balloon Time in an Acute Myocardial Infarction Patient	Int Heart J 2013; 54:45-47
5	Nabeta T, Inomata T, Sato T, Inoue Y, Izumi T, et al	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Baseline cardiac magnetic resonance imaging versus baseline endomyocardial biopsy for the prediction of left ventricular reverse remodeling and prognosis in response to therapy in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy Dilated Cardiomyopathy	Heart Vessels. 2013, Oct (equip ahead of print)
6	Murakami M, Niwano S, Satoh A, Ishikawa S, Kishihara J, Aoyama Y, Niwano H, Izumi T.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Usefulness of Upstream Therapy with Renin-Angiotensin System Inhibitors for Prevention of New Onset Atrial Fibrillation in Patients with Heart Failure	Kitasato Med J 2013; 43, 165-171
7	Ishikawa S, Niwano S, Imaki R, Takeuchi I, Irie W, Toyooka T, Soma K, Kurihara K, Izumi T.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	A simple prognostication score can predict the long-term prognosis of younger patients with out-of-hospital cardiac arrests	Int Heart J 2013; 54, 362-70.

8	Oikawa J, Niwano S, Niwano H, Ishizue N, Yoshizawa T, Sato A, Kurokawa S, Hatakeyama Y, Fukaya H.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Prophylactic attain administration may prevent shortening of the fibrillation cycle length in patients with new onset atrial fibrillation.	Int Heart J 2013; 54: 371-6.
9	Niwano S, Oikawa J, Fukaya H.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Prophylactic catheter ablation for ventricular tachycardia reduces morbidity and mortality in patients with implantable cardioverter-defibrillator devices.	J Arrhythmia 2013; 29: (in press).
10	Kameda R, Yamaoka-Tojo M, Makino A, Wakaume K, Nemoto S, Kitasato L, Shimohama T, Tojo T, Machida Y, Izumi T	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Soluble Fms-like tyrosine kinase 1 is a novel predictor of brain natriuretic peptide elevation.	Int Heart J. 2013;54(3):133-9.
11	Hashikata T, Tojo T, Ishii S, Kitasato L, Kameda R, Shimohama T, Yamaoka-Tojo M, Ako J.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Neoatherosclerosis 16 years following bare-metal stent implantation: Different tissue components in different underlying lesions observed with optical coherence tomography.	Int J Cardiol. 2013 Dec 5;170(1):e8- 10.
12	Nishinari M, Shimohama T, Tojo T, Shiono T, Shinagawa H, Kameda R, Aoyama N, Izumi T.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Two-Week Interval Optical Coherence Tomography: Imaging Evidence on Neointimal Coverage Completion after Implantation of the Endeavor Zotarolimus- Eluting Stent	Catheter Cardiovasc Interv. 2013 Dec 1;82(7):E871-8
13	Kohno T, Yamaoka-Tojo M, Fukai T, Ushio-Fukai M.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	IQGAP1 links PDGF receptor • signal to focal adhesions involved in vascular smooth muscle cell migration: role in neointimal formation after vascular injury.	Am J Physiol: Cell Physiol. 2013 Sep; 305(6):C591-600.
14	Kamiya K, Mezzani A, Hotta K, Shimizu R, Kamekawa D, Noda C, Yamaoka-Tojo M, Matsunaga A, Masuda T.	Department of Cardiovascular Medicine Kitasato University School of Medicine	Quadriceps isometric strength as a predictor of exercise capacity in coronary artery disease patients.	Eur J Prev Cardiol. 2013 May 30. [Epub ahead of print]

計 14

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
 - 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	内藤正吉	腎臓内科	Amelioration of circulating lipoprotein profile and proteinuria in a patient with LCAT deficiency due to a novel mutation (Cys74Tyr) in the lid region of LCAT under a fat-restricted diet and ARB treatment.	Atherosclerosis 228(1):193-7, 2013/5
2	小林圭	腎臓内科	Glomerular enlargement correlated with body mass index is a distinct characteristic of obesity-related glomerulopathy.	Kitasato Med J 43(2): 111-118, 2013/9
3				

計 2

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Miyakawa S, Ogino M, Funabe S, Uchino A, Shimo Y, Hattori N, Ichinoe M, Mikami T, Saegusa M, Nishiyama K, Mori H, Mizuno Y, Murayama S, Mochizuki H.	Department of Neurology, Kitasato University School of Medicine	Lewy body pathology in a patient with a homozygous parkin deletion.	Mov Disord. Vol. 28, number 3, p388-91, 2013
2	Ryoh M, Hasegawa K, Fukuyama Y, Nishiyama K, Kowa H	Department of Neurology, Kitasato University School of Medicine	Psychology of patients with amyotrophic lateral sclerosis(ALS)	Kitasato Medical Journal vol.44, number 1, p1-5, 2014
3	Ryoh M, Hasegawa K, Furusawa E, Fukuyama Y, Nishiyama K, Kowa H	Department of Neurology, Kitasato University School of Medicine	Psychology of patients with amyotrophic lateral sclerosis(ALS)compared with that of cancer patients.	Kitasato Medical Journal. Vol. 44, number 1, p6-11, 2014
4	Ryoh M, Hasegawa K, Fukuyama Y, Sakai F, Furuhashi N, Nishiyama K, Kowa H	Department of Neurology, Kitasato University School of Medicine	Psychology of patients with amyotrophic lateral sclerosis(ALS)compared with spinocerebellar degeneration,Parkinsons disease,and cerebrovascular disease	Kitasato Medical Journal. Vol.44, number 1, p12-16, 2014
5	Miyakawa S, Ogino M, Funabe S,et.al.	kitasato university Department of Neurology	Lewy body pathology in a patient with a homozygous parkin deletion.	Mov Disord. ,28:388-391, 2013
6	ALSUntangled Group,(Mieko Ogino)	kitasato university Department of Neurology	ALS Untangled No. 20: the Deanna protocol.	Amyotroph Lateral Scler Frontotemporal Degener, 14:319-23, 2013

計 6

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Hirohata S, Tomita T, Yoshikawa H, Kyogoku M	膠原病感染内科	TNF inhibitors induce discoid fibrosis in the sublining layers of the synovium with degeneration of synoviocytes in rheumatoid arthritis.	Rheumatol Int
2	Tanaka H, Arai M, Tomoda Y, Wada T, Yago K, Satoh M.	膠原病感染内科	Evaluation of renal adverse effects of combination anti-retroviral therapy including tenofovir in HIV-infected patients.	J Pharm Pharm Sci.
3	Tejima S, Tono T, Nagai T, Hirohata S	膠原病感染内科	Differential in vitro effects of biological agents on cytokine production of peripheral blood mononuclear cells.	Kitasato Med J
4	Hirohata S, Yanagida T, Tomita T, Yoshikawa H	膠原病感染内科	Increased generation of pre-plasmacytoid dendritic cells in bone marrow of rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol
5	Yokoseki A, Saji E, Arakawa M, Kosaka T, Hokari M, Toyoshima Y, Okamoto K, Takeda S, Sanpei K, Kikuchi H, Hirohata S, Akazawa K, Kakita A, Takahashi H, Nishizawa M, Kawachi I.	膠原病感染内科	Hypertrophic pachymeningitis: significance of myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody.	Brain
6	Kimura M, Nagai T, Matsushita R, Hashimoto A, Miyashita T, Hirohata S.	膠原病感染内科	Role of FK506 binding protein 5 (FKBP5) in osteoclast differentiation.	Mod Rheumatol
7	Yoshio T, Okamoto H, Hirohata S, Minota S	膠原病感染内科	IgG Anti-NR2 glutamate receptor auto-IgG antibodies from patients with systemic lupus erythematosus activate endothelial cells.	Arthritis Rheum
～				

計 7

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
 - 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Katsuo Inoue	精神神経科	The feature of high reading ability in high-functioning pervasive developmental disorders of childhood : Analysis of the K-ABC and WISC-3rd assessment	Research in Autism Spectrum Disorders
2	Katsuo Inoue	精神神経科	Case report of schizophrenia in adolescent with Russell-Silver syndrome	Psychiatry and Clinical Neurosciences 2014
3				
4				

計 2

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Yusuke Inoue	北里大学病院(放射線診断科、放射線部、神経内科)、北里大学東病院(放射線診断科、放射線部)、大阪大学神経内科	Acquisition protocols and correction methods for estimation of the heart-to-mediastinum ratio in ^{123}I -metaiodobenzylguanidine cardiac sympathetic imaging	J Nucl Med. 2013;54(5):707-13.
2	Yusuke Inoue	北里大学病院(放射線診断科、放射線部)	Effect of Breath Holding on Spleen Volume Measured by Magnetic Resonance Imaging	PLoS One. 2013;8(6):e68670.
3	Yusuke Inoue	北里大学病院(放射線診断科、放射線部、神経内科)	Septal penetration in iodine-123 metaiodobenzylguanidine cardiac sympathetic imaging using a medium-energy collimator	J Nucl Cardiol. 2014;21(1):71-7.
4	Reiko Woodhams	北里大学病院(放射線診断科、放射線部)、University of Newcastle	Diffusion-weighted Imaging of the Breast: Comparison of B-values 1000 s/mm ² and 1500 s/mm ²	Magn Reson Med Sci. 2013;12(3):229-34.
5	Gou Ogasawara	北里大学病院(放射線診断科)、北里大学東病院(放射線診断科、放射線部)	Improved reproducibility of simple quantitative indices from $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -GSA liver functional imaging	Ann Nucl Med. 2013;27(5):487-91.
~				

計 5

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

⑦

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	中村隆俊	外科	Laparoscopic surgery for colon cancer in obese patients: a case-matched control study	Surgery Today
2	中村隆俊	外科	Tissue concentrations of antibiotics given prophylactically during colorectal cancer surgery	Hepatogastroenterology
3	中村隆俊	外科	Lateral Lymph Node Dissection for Lower Rectal Cancer	World J Surg
4	山下継史	外科	Perineural Invasion and Preoperative Serum Ca19-9 as Predictors of Survival in Biliary Tract Cancer	Anticancer research
5	山下継史	外科	Laparoscopy versus open distal gastrectomy by expert surgeons for early gastric cancer in Japanese patients:short-term clinical outcomes of a randomized clinical trial	Surgical Endoscopy
6	山下継史	外科	Survival outcome of laparoscopic gastrectomy for clinical early (cT1) gastric cancer	Surgery today
7	山下継史	外科	DNA damage-inducible gene, reprimofunctions as a tumor suppressor and is suppressed by promoter methylation in gastric cancer	Molecular cancer research : MCR
8	山下継史	外科	The Homeobox Only Protein Homeobox (HOPX) and Colorectal Cancer	International journal of molecular sciences

計 8

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
~				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	友保 貴博	北里大学医学部心臓血管外科学	Surgical strategy for severe aortic hypoplasia and aortic stenosis with ventricular septal defect and normal left ventricle.	Pediatr Cardiol .34(5)1107-11.2013.
2	井上 信幸	北里大学医学部心臓血管外科学	Univentricular heart with bridging bronchus and sling left pulmonary artery.	Pediatr Cardiol .34(5)1280-2.2013.
3	藤石 珠美	北里大学医学部循環器内科学	Prosthetic mitral valve endocarditis with left atrial dissection.	Circ J.77(6).1585-6.2013
4	井上 信幸	北里大学医学部心臓血管外科学	Neutrophil elastase inhibitor sivelestat attenuates perioperative inflammatory response in pediatric heart surgery with cardiopulmonary bypass.	Int Heart J.54(3)149-53.2013
5	板谷 慶一	北里大学医学部心臓血管外科学.血流解析学	Intraventricular Flow Velocity Vector Visualization Based on the Continuity Equation and Measurements of Vorticity and Wall Shear Stress.	Japanese Journal of Applied Physics.52 (2013) 07HF16
6	古平 聡	北里大学病院ME	Effect of the neutrophil elastase inhibitor sivelestat on perioperative inflammatory response after pediatric heart surgery with cardiopulmonary bypass: a prospective randomized study.	Artif Organs. 37(12)1027-33.2013
7	本田 崇	北里大学医学部小児科学	Quantitative evaluation of hemodynamics in the fontan circulation: a cross-sectional study measuring energy loss in vivo.	Pediatr Cardiol. 35(2)361-7.2014
8	本田 崇	北里大学医学部小児科学	Assessment of the vortex flow in the post-stenotic dilatation above the pulmonary valve stenosis in an infant using echocardiography vector flow mapping.	Eur Heart J.35(5).306.2014
9	中島 光貴	北里大学医学部心臓血管外科学	A case report of persistent fifth aortic arch presenting with severe left ventricular dysfunction.	Int Heart J.7;55(1)87-88.2014
10	井上 崇道	北里大学医学部心臓血管外科学	Five-week use of a monopivot centrifugal blood pump as a right ventricular assist device in severe dilated cardiomyopathy.	J Artif Organs. 17(1).95-98.2014

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Fumihiko Ogawa	呼吸器外科	Report of a rare case: occult hemothorax due to blunt trauma without obvious injury to other organs	Journal of Cardiothoracic Surgery,8(1):205
2	Iyoda A	呼吸器外科	Clinicopathological features and the impact of the new TNM classification of malignant tumors in patients with pulmonary large cell neuroendocrine carcinoma.	Mol Clin Oncol. ,1(3):437-443
3	Fumihiko Ogawa	呼吸器外科	Risk factors for postoperative complications in the elderly with lung cancer	Asian cardiovascular & thoracic annals,21(3): 313-8
4				
5				
6				
7				

計 3

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
~				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

⑩

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績/今回から英文に限定された。

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Shinbo T, Kokubo K, Sato Y, Hagiri S, Hataishi R, Hirose M, Kobayashi H.	Kitasato University School of Allied Health Sciences	Breathing Nitric Oxide plus Hydrogen Gas Reduces Ischemia-Reperfusion Injury and Nitrotyrosine Production in Murine Heart.	Am J Physiol Heart Circ Physiol. 305: H542-H550, 2013.
2	Tsukao H, Kokubo K, Takahashi H., Nagasato M, Endo Takanori, Iizuka N, Shinbo T, Hirose M, Kobayashi H.	Kitasato University School of Allied Health Sciences	Activation of platelets upon contact with a vitamin E-coated/ non-coated surface.	J Artif Organs 16(2):193- 205,2013
3	Maruyama N, Kokubo K, Shinbo T, Hirose M, Kobayashi M, Sakuragawa N, Kobayashi H.	Kitasato University School of Allied Health Sciences	Hypoxia enhances the induction of human amniotic mesenchymal side population cells into vascular endothelial lineage.	Int J Mol Med 32: 315-322, 2013

計 3

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	隈部俊宏	北里大学医学部脳神経外科*広南病院神経麻酔科** 東北大学医学部脳神経外科***東北大学医学系研究科高次機能障害学****山形大学高次脳機能障害学*****東北大学てんかん学分野	Summary of 15 years experience of awake surgeries for neuroepithelial tumors in Tohoku University	Neurol Med Chir (Tokyo) 53(7):455-466, 2013
2	隈部俊宏	北里大学医学部脳神経外科*東北大学脳神経外科** 東北大学病理***宮城がんセンター脳神経外科****山形大学脳神経外科	Treatment results of glioblastoma during the last 30 years in a single institute	Neurol Med Chir (Tokyo) 53: 786-796, 2013
3	佐藤公俊	北里大学医学部脳神経外科	Intraoperative fluoroscopy with contrast for correct lumbar placement in lumboperitoneal shunts	Kitasato Med J 43:155-158,2013
4	佐藤公俊	北里大学医学部脳神経外科*放射線科学(画像診断学)	Signal intensity changes for the middle cerebral artery on 3-dimensional time-of-flight magnetic resonance angiography indicate acute hemodynamic changes after carotid endarterectomy	J Stroke Cerebrovasc Dis22(8):e511-515,2013
5	佐藤公俊	北里大学医学部脳神経外科*救急	Ruptured aneurysms with acute subdural hematoma: indication for treatment	Neurosurg Emerg18(1):42-47,2013
6	近藤竜史	北里大学医学部脳神経外科*広南病院脳血管内外科** 同脳神経外科***名古屋大学脳神経外科****神戸市立医療センター中央市民病院脳神経外科	Endovascular embolization of cerebral arteriovenous malformations: results of the Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy (JR-NET) 1 and 2	Neurol Med Chir (Tokyo)54(1):54-62,2014

計 6

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	木島千尋	北里大学医学部脳神経外科	閉塞性水頭症を併発する脳室内腫瘍摘出後に急性硬膜外・硬膜下血腫をきたした原因とその対処法	脳神経外科速報 23(5):510-513,2013
2	佐藤公俊	北里大学医学部脳神経外科	Cerebral Infarction after Acetazolamide-challenged Single-photon Emission Computed Tomography in a Patient with Adult-onset Moyamoya Disease Accompanied by Several Risk Factors	脳循環代謝 24(2):21-24
3	清水 暁	北里大学医学部脳神経外科	Patients with Spinal Ependymomas Attached to the Anterior Median Septum are at Risks for Postoperative Functional Impairment: A Correlating Analysis	脊髄外科 27(2):153-160,2013
4	隈部俊宏	北里大学医学部脳神経外科*東北大学大学院神経外科学分野**鈴木二郎記念ガンマハウス***宮城県立こども病院脳神経外科	小児脳腫瘍診療の現況と問題点に関して	小児の脳神経 38(4):326-332,2013
5	佐藤公俊	北里大学医学部脳神経外科	後拡張手技を行わない頸動脈ステント留置術後の過灌流状態においてくも膜下出血とステント閉塞を来した1例	JNET7(4):259-265,2013
6	佐藤公俊	北里大学医学部脳神経外科	もやもや病の症状と治療について	もやの会々報 No.116: 5-23,2013
7	隈部俊宏	北里大学医学部脳神経外科*大阪医科大学脳神経外科**国立がん研究センター中央病院***埼玉医科大学国際医療センター脳脊髄腫瘍科****柏葉脳神経外科*****大阪医科大学脳神経外科	悪性神経膠腫における腫瘍切除率向上をめざして～アラベル®内服剤1.5gによる光線力学診断と適正使用～	アラベル®座談会 pp.2-10,2013
8	佐藤澄人	北里大学医学部脳神経外科	パーキンソン病に対する外科治療	北里医学43(2):95-104,2013
9	隈部俊宏	北里大学医学部脳神経外科	如何にして生きるのか	脳神経外科速報 24(1):110-111,2014
10	清水 暁	北里大学医学部脳神経外科	脊髄髄膜腫は脊椎椎間と脊椎変性近傍に好発する	J Spine Res5(1):34-38,2014

11	小泉寛之	北里大学医学部脳神経外科**救急**心臓血管外科	補助人工心臓(ventricular assist device)装着中に脳出血を合併した1例	日救急医学会誌 25(2):63-68,2014
12	隈部俊宏	北里大学医学部脳神経外科*国立循環器病研究センター**東北大学	中大脳動脈穿通枝の解剖と急性閉塞の臨床	脳神経外科診療プラクティス1 脳血管障害の急性期マネジメントpp.36-37,2014
13	隈部俊宏	北里大学医学部脳神経外科	神経膠腫手術の歴史	CLINICIAN グリ オーマ61(3):39-36,2014

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	浅川賢1、加藤紗矢香2、庄司信行1、森田哲也2、清水公也2	1医療衛生学部、2眼科	Evaluation of Optic Nerve Head Using a Newly Developed Stereo Retinal Imaging Technique by Glaucoma Specialist and Non-Expert-Certified Orthoptist	J Glaucoma. 22(9): 698-706, 2013.12
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				

計 1

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	HIDEYASU TSUMURA	泌尿器科	Abnormal expression of multiple proteins predicts cancer-specific mortality in patients with high-grade non-muscle-invasive bladder cancer treated with transurethral resection	Molecular and Clinical Oncology
2	Shinji Kurosaka,	泌尿器科	Anaplastic Lymphoma Kinase (ALK) and p53 Are Potentially Useful Markers to Distinguish Inflammatory Myofibroblastic Tumor	Open Journal of Urology
3	Tetsuo Fujita	泌尿器科	Combined therapeutic effects of a denoviral vector-mediated GLIPR1 gene therapy and radiotherapy in prostate and bladder cancer models	UROLOGIC ONCOLOGY-SEMINARS AND ORIGINAL INVESTIGATIONS
4	Masatsugu Iwamura	泌尿器科	Efficacy and late complications of laparoscopic pyeloplasty: Experience involving 125 consecutive ureters	Asian Journal of Endoscopic Surgery
5	Tetsuo Fujita	泌尿器科	Predictors of benign histology in clinical T1a renal cell carcinoma tumors undergoing partial nephrectomy	INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY
6	Takahashi R	泌尿器科	Roles of microsomal prostaglandin E synthase-1 in lung metastasis formation in prostate cancer RM9 cells	Biomed Pharmacother
7	Masaomi Ikeda	泌尿器科	The impact of real-time 3d imaging by ultra-high speed optical coherence tomography in urothelial carcinoma	BMC Urology
8	KEN KOSHIBA	泌尿器科	Effect of Thermosensitization with Parthenolide in Thermotherapy of Early Prostate Cancer Combined with Androgen Deprivation; with an Emphasis on Histopathologic Findings	Thermal Medicine

計 8

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
 - 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Yoko Narumi,1,2 Sachiko Nishina,3 Motoharu Tokimitsu,4 Yoko Aoki,5 Rika Kosaki,6 Keiko Wakui,2 Noriyuki Azuma,3 Toshinori Murata,4 Fumio Takada,1 Yoshimitsu Fukushima,2 and Tomoki Kosho2	1Department of Medical Genetics, Kitasato University Graduate School of Medical Sciences, 2Department of Medical Genetics, Shinshu University School of Medicine, 3Division of Ophthalmology, National Center for Child Health and Development, 4Department of Ophthalmology, Shinshu University School of Medicine, 5Department of Medical Genetics, Tohoku University School of Medicine, 6Division of Medical	Identification of a novel missense mutation of MAF in a Japanese family with congenital cataract by whole exome sequencing: A clinical report and review of literature.	Am J Med Genet A. 164(5):1272-6. 2014.
2	Yoko Aoki,1, Tetsuya Nihori,1 Toshihiro Banjo,2 Nobuhiko Okamoto,3 Seiji Mizuno,4 Kenji Kurosawa,5 Tsutomu Ogata,6 Fumio Takada,7 Michihiro Yano,8 Toru Ando,9 Tadataka Hoshika,10 Christopher Barnett,11,12 Hirofumi Ohashi,13 Hiroshi Kawame,14 Tomonobu Hasegawa,15 Takahiro Okutani,16 Tatsuo Nagashima,17 Satoshi Hasegawa,18 Ryo Funayama,19 Takeshi	1Department of Medical Genetics, Tohoku University School of Medicine, Sendai 980-8574, Japan; 2Department of Developmental Neurobiology, Institute of Development, Aging, and Cancer, Tohoku University, Sendai 980-8575, Japan; 3Department of Medical Genetics, Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child Health, Izumi 594-1101, Japan; 4Department of Pediatrics, Central Hospital, Aichi Human Service Center, Kasugai 480-0392, Japan; 5Division of Medical Genetics, Kanagawa Children's Medical Center, Yokohama 232-8555, Japan; 6Department of Pediatrics, Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu 431-3192, Japan; 7Department of Medical Genetics, Kitasato University Graduate School of Medical Sciences, Sagami-hara 252-0373,	Gain-of-Function Mutations in RIT1 Cause Noonan Syndrome, a RAS/MAPK Pathway Syndrome	Am J Hum Genet. 93:173-180, 2013

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	高田史男	遺伝診療部 北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学	新型出生前検査の実施体制の整備と課題	医療と検査機器・ 試薬36(5):601- 606, 2013.
2	高田史男	遺伝診療部 北里大学大学院医療系研究科臨床遺伝医学	遺伝学的検査ビジネス状況	小児科診療 76(7): 1149-1155, 2013.
3				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 英語論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	吉田 功	北里大学病院病院病理部	Transcriptional upregulation of HIF-1 α by NF- κ B/p65 and its associations with β -catenin/p300 complexes in endometrial carcinoma cells.	Laboratory Investigation, 93(11), 1184-1193, 2013.
2	吉田 功	北里大学病院病院病理部	Transcriptional regulation of the alpha-1 type II collagen gene by nuclear factor B/p65 and Sox9 in the chondrocytic phenotype of uterine carcinosarcomas	Human Pathology, 44(9), 1780-1788, 2013.
3	仲田 典広	北里大学病院病院病理部	Unique and selective expression of L-amino acid transporter 1 in human tissue as well as being an aspect of oncofetal protein	Histology and Histopathology, 29, 2, 217-227, 2014

計 3

合計 80

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ①研究者が、研究申請書及び実験計画書を倫理委員会事務局へ提出。 ②臨床研究指針に基づき委員会にて審議ならび判定の後、臨床研究機関長が実施の可否を決定する。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容：産官学連携活動に関する北里大学利益相反マネジメント・ポリシーに基づき、利益相反に関する事項を審議する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年6回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容：臨床研究に関する倫理指針の総合解説等	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

北里大学病院は、1033床の病床を有する特定機能病院であり、地域における災害拠点病院、がん診療連携拠点病院として超急性期医療に対応するべく、各医療センターを中心にチーム医療を中心とした最先端の医療を提供している。

初期臨床研修後の病棟医（卒後3～6年）については、各科毎に「後期研修プログラム」を設け、上位者よりきめ細かい指導を受ける体制と、医師としての資質向上のため診療科の枠を超えた全病院的指導体制を築いている。

当院での研修を通じて、幅広い知識と技量を有した専門医を育成し、専門領域に関する継続的な探究心を身につけることを目標とする。

2 研修の実績

研修医の人数	117.3 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
七里 眞義	内分泌代謝内科	教授	33 年	
鎌田 貢壽	腎臓内科	教授	37 年	
東原 正明	血液内科	教授	34 年	
廣畑 俊成	感染症内科	教授	33 年	
小泉 和三郎	消化器内科	教授	33 年	
阿古 潤哉	循環器内科	教授	22 年	
益田 典幸	呼吸器内科	教授	36 年	
西山 和利	神経内科	教授	26 年	
宮岡 等	精神科	教授	32 年	
天羽 康之	皮膚科	教授	17 年	
井上 優介	放射線診断科	教授	24 年	
早川 和重	放射線治療科	教授	35 年	
渡邊 昌彦	外科	教授	34 年	
佐藤 之俊	呼吸器外科	教授	28 年	
宮地 鑑	心臓血管外科	教授	26 年	
隈部 俊宏	脳神経外科	教授	27 年	
高相 晶士	整形外科	教授	24 年	
武田 啓	形成外科・美容外科	准教授	28 年	
岩村 正嗣	泌尿器科	教授	30 年	
岡本 牧人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	38 年	
清水 公也	眼科	教授	37 年	
石井 正浩	小児科	教授	28 年	
恩田 貴志	産科・婦人科	教授	27 年	
岡本 浩嗣	麻酔科	教授	26 年	
浅利 靖	救急科	教授	27 年	
狩野 有作	臨床検査科	准教授	23 年	
村雲 芳樹	病理診断科	教授	25 年	
赤星 透	内科	教授	34 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 1) 北里腫瘍フォーラム 2) 北里循環器セミナー 3) 北里血管フォーラム
・研修の期間・実施回数 1) 年2回 2) 年5回 3) 年2回
・研修の参加人数 1) 1回につき60名前後 2) 1回につき100名前後 3) 1回につき50名前後
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容
・研修の期間・実施回数
・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容
・研修の期間・実施回数
・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 海野 信也
管理担当者氏名	事務部長 熊澤 豊彦

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		事務部 医事課 診療情報管理室 放射線部	初回受診時に、1患者1番号制で受診登録番号(患者番号7桁)を設定。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	人事課	
	閲覧実績	診療情報管理室	
	紹介患者に対する医療提供の実績	トータルサポートセンター	
第規一則号第一に掲げる十の第一項及び第九の二十第一項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質・安全推進室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質・安全推進室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質・安全推進室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質・安全推進室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療の質・安全推進室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療の質・安全推進室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	トータルサポートセンター 総務課 医事課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染管理室
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
	各号	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	及び	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第九条	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	の	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	二十三	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME部
	第一項	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部
第一号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部	
に掲げる	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部	
体制の			
確保の			
状況			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	事務部長 熊澤 豊彦		
閲覧担当者氏名	総課長補佐 平本 照雄		
閲覧の求めに応じる場所	総務課		
閲覧の手続の概要			
閲覧申請を受けたら、事務部長の承認を得て、総務課内にて閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 安全管理に関する基本的考え方（基本理念、基本姿勢） 安全管理のための委員会及び組織体制に関する基本的事項 安全管理のための職員への教育研修に関する基本方針 医療安全の確保を目的とした改善のための方策 医療事故発生時の対応に関する基本方針 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 患者及び家族からの相談への対応に関する基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容：【リスクマネジメント委員会の開催】 <ul style="list-style-type: none"> 医療事故防止活動全般とインシデント及び医療事故発生時の対応に関すること 医療事故防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること 医療事故防止のための情報収集と必要部門への伝達に関すること 医療安全に係る各種ワーキング及びプロジェクト活動に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 66 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメント研修会（内部講師、全職員対象） リスクマネジャー研修会（内部講師、予期せぬ死亡時の対応） 各種の医療安全研修会（医療KYT、チームコミュニケーション、分析手法、深部静脈血栓症防止、血管外漏出、転倒・転落の防止、他） 新規採用者研修（研修医・コメディカルのオリエンテーション時） 復職医師・中途採用医師の随時研修、看護師のフォローアップ研修、その他 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価の実施 リスクマネジメント委員会での改善具体策の検討・実施 改善具体策のフィードバック（リスクマネジメントニュース・会議体での周知、マニュアルの改廃・作成等） 	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（4名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（6名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専任（6）名 兼任（3）名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメント委員会の運営に関する業務 医療事故防止のための事例情報収集・分析・対策立案・フィードバックに関する業務 医療安全のための職員研修に関する業務 医療安全管理に関するマニュアル・ハンドブック等の整備に関する業務 患者相談窓口担当者との支援、連携に関する業務 医療事故発生時や事故後の対応支援及び指導に関する業務 医療訴訟、和解等に関する業務 その他 	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：平成26年10月1日現在</p> <p>(1) 『院内感染対策のための指針』は、平成 19 年 4 月 1 日付で制定し、平成 22 年 2 月 24 日付、平成 23 年 2 月 22 日付、平成 26 年 2 月 26 日付けで一部改定した。</p> <p>(2) 同指針には、院内感染対策に関する基本方針、院内感染管理体制、院内感染対策のための教育・研修、感染症発生状況報告体制、院内感染発生時の対応、患者などに対する当該方針の閲覧に関する基本方針、指針の改廃手続を定めている。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：平成 25 年度 1 年分</p> <p>(1) 院内感染防止委員会 (ICC) は、毎月第 4 水曜日午後 5 時から定例開催し、緊急対策会議の招集はなかった。</p> <p>(2) ICC の議題は、院内感染対策や感染症検査の扱い、ICC 運営や院内感染対策チーム (ICT) などの運営に関すること、ICT 活動報告、定期報告事項、その他の感染に関する議題を検討した。</p> <p>(3) 定期報告事項は、前月の分離菌・薬剤耐性菌や法令規定の病原菌検出状況、ウイルス抗原検出状況、抗菌薬や消毒薬の使用状況、感染症届出状況、針刺・粘膜曝露事故発生状況、厨房等従事者の定期糞便検診結果、環境定期検査報告、感染情報誌の発行などを検討した。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 21 回
<p>・ 研修の主な内容：平成 25 年度 1 年分</p> <p>(1) 新規採用者全員は入職時オリエンテーション、研修医・看護師は新規採用研修会、中途採用医師や看護師は随時実施した。10 月以降は毎月月初め日に復職医師説明会を開催した。</p> <p>(2) 全職員を対象とする講演会は 3 回開催した。講演内容はビデオ収録し、ビデオ講演会 3 回、DVD 貸出聴講も随時実施した。</p> <p>(3) 医師を対象に「ICT と学ぶ感染症セミナー」を 2 回 (微生物編と抗菌薬編) 開催した。</p> <p>(4) リンクスタッフを対象に感染対策研修を 5 回実施した。</p> <p>(5) 結核のハイリスク部門の医師や看護師を対象に N95 微粒子マスクのフィットチェックを実施した。</p> <p>(6) 看護補佐や診療アシスタントを対象に感染対策研修会を開催した。</p> <p>(7) 院内常駐の委託業者職員を対象に病院環境衛生研修会を開催した。</p> <p>(8) 院内ボランティア、北里大学奉仕団を対象に感染対策研修会を開催した。</p> <p>(9) 小児病棟を対象にアウトブレイク講習会と感染対策実技研修を実施した。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無) 平成 26 年 10 月 1 日現在</p> <p>(1) 検査結果速報体制の整備 臨床検査や病理部門は、院内感染防止委員会が定めた病原体・耐性菌・抗体価の異常値検出、病理診断した場合には検査結果を検査依頼医・感染管理室・院内感染防止委員会委員長に速報 (検査結果速報) する体制。</p> <p>(2) 感染症・食中毒発生報告体制の整備 医師は、感染症や食中毒を診断した場合には報告書を感染管理室長・院内感染防止委員会委員長に報告する体制。</p> <p>(3) サーベイランスによる発生把握 手術部位感染、血管内留置カテーテル関連血流感染症、尿道留置カテーテル関連尿路感染症、人工呼吸器関連肺炎、その他のサーベイランスによる発生状況を把握し、当該診療科・ICC に報告。</p>	

(4) 針刺し・粘膜曝露事故発生時の体制整備

職員・患者・研修生などが針刺し粘膜曝露事故の当事者になった場合、針刺し事故指導医による指導のもと24時間体制の検査と報告・治療・報告書の提出、指導医による経過観察を実施する体制。

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- (1) 『院内感染防止対策の手引 2014 年版（第 20 次改訂版）』を平成 26 年 4 月 1 日付で発行した。
- (2) 『かんせん情報誌』を 6 回発行し、病原体や感染対策などに関する情報の共有化に取り組んだ。
- (3) 院内イントラネット環境に『院内感染対策のための指針』、『院内感染防止対策の手引』、『かんせん情報誌』、『感染症診療のための臨床分離菌情報』、『抗菌薬感受性率一覧』、『抗菌薬使用量』などを掲載し、24 時間の閲覧や情報提供に取り組んだ。
- (4) 広域抗菌薬や抗 MRSA 薬は、使用届出制を採用し、毎日対応した。
- (5) ICT 活動は毎週水曜日に抗菌薬・血液培養陽性者ラウンド、木曜日は環境ラウンドを定例開催した。耐性菌や二次感染などが危惧される病原体検出時は随時ラウンドを実施した。
- (6) 感染症、病原体や抗菌薬の使用などに係る質問には、年間を通じてコンサルテーションした。
- (7) 結核対策、インフルエンザや感染性胃腸炎などの流行時の対策に取り組んだ。

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 12 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医療安全に係る説明（医薬品） 開催日：2013年4月1日 場所：臨床講義室No. 1 8:30～9:00 参加者：復職・兼務医師採用者28名 講師：薬剤部 小川 幸雄・ 非ステロイド性消炎鎮痛薬の適正使用について 開催日：2013年6月17日全職員対象 場所：臨床講義室No. 2 17:30～18:30 参加者：医師、看護師、薬剤師 12名 講師：薬剤部 佐々木 寿子・ 簡易懸濁法と栄養チューブ閉塞予防について ～チューブからの与薬は大丈夫？～ 開催日：2013年8月2日全職員対象 場所：第一・第二会議室 17:30～19:00 参加者：医師、看護師、栄養士、薬剤師 49名 講師：薬剤部 関 めぐみ・ 経静脈栄養について 開催日：2013年9月6日全職員対象 場所：第一・第二会議室 17:30～18:40 参加者：医師、看護師、栄養士、薬剤師 60名 講師：薬剤部 小川 幸雄・ 抗凝固薬の適正使用 開催日：2013年9月17日全職員対象 場所：臨床講義室No. 2 17:30～18:30 参加者：看護師、薬剤師 32名 講師：薬剤部 坂倉 智子・ 研修医教育セミナー 薬剤投与の基本的注意事項 開催日：2013年9月21日 場所：医学部M31教室 9:30～11:00 参加者：研修医 49名 講師：薬剤部 渡邊 浩嗣・ 医療安全に係る説明（医薬品） 開催日：2013年10月1日 場所：臨床講義室No. 1 9:00～9:30 参加者：復職・兼務医師採用者17名 講師：薬剤部 小川 幸雄・ 注射剤の配合変化 開催日：2013年10月15日(火) 全職員対象 場所：臨床講義室No. 2 17:30～18:30 参加者：看護師、薬剤師 27名 講師：薬剤部 佐々木 寿子	

- ・がん疼痛に使用する医療用麻薬の適正使用
開催日：2013年11月12日(火) 全職員対象
場所：臨床講義室No. 4 17:30～18:30
参加者：看護師、薬剤師 7名
講師：薬剤部 国分 秀也
- ・医療安全に係る説明(医薬品)
開催日：2014年1月6日
場所：臨床講義室No. 1 9:00～9:30
参加者：復職・兼務医師採用者6名
講師：薬剤部 小川 幸雄
- ・医療安全に係る説明(医薬品)
開催日：2014年2月3日
場所：臨床講義室No. 1 9:00～9:30
参加者：復職・兼務医師採用者5名
講師：薬剤部 小川 幸雄
- ・抗がん剤の安全使用
開催日：2014年2月24日(月) 全職員対象
場所：臨床講義室No. 2 17:30～18:30
参加者：看護師、薬剤師 33名
講師：薬剤部 菅原 充広

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- ・ 手順書の作成 (有 無)
- ・ 業務の主な内容：

別紙「医薬品安全使用のための業務手順書」目次参照
別紙「医薬品安全使用に関するチェックシート」

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- ・ 医療の質・安全推進室との情報交換・情報収集(1回/週)
- ・ 投薬・注射WGにて医薬品の安全使用・管理について検討(1回/月)
- ・ 医薬品適正使用委員会、抗生物質検討委員会にて、医薬品使用に関する情報を収集・検討し、適正使用に活用している。
- ・ 休業期間を考慮する必要性のある医薬品一覧表を2回/年更新し、配布および端末からの参照ができるようにしている。
- ・ 処方に関する疑義照会およびプレアボイド事例をまとめ、リスクマネジメント委員会等の会議にて報告し、医薬品の安全使用の喚起をおこなっている。(1回/2月)

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年195回 (平成25年度)
・ 研修の主な内容： ① 新しい医療機器の導入時の研修 ② 特定機能病院における定期的研修 ・ 人工呼吸器の取扱いについて ・ 閉鎖式保育器の取扱いについて ・ 血液浄化装置の取扱いについて ・ 除細動器の取扱いについて ・ 人工心肺装置について など	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有)・無) ・ 保守点検の主な内容： ① 定期点検 (外観点検、機能点検、作動点検、電気的安全性点検) ② 終了時点検 (作動点検、外観点検) ③ 安全ラウンド点検 (作動点検、使用法確認) ④ 故障時点検 (外観点検、機能点検、作動点検) など	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ① リスクマネジメント委員会での報告 (医療機器安全性情報の徹底、院内院外インシデントの報告・検討) ② 院内広報誌 (リスクマネジメントニュースなど) での広報 (医療機器安全性情報等) ③ インシデントに基いた研修会の開催	